

毎日が愛おしい。



子どもが 教えて くれたこと

文部科学省特別選定(青年、成人、家庭向き) 文部科学省選定(少年向き)
厚生労働省社会保障審議会特別推薦児童福祉文化財
東京都推奨映画

監督・脚本: アンヌドフィーヌ・ジュリアン 出演: アンブル、カミーユ、イマド、シャルル、テュデュアル
配給: ドマ 宣伝: VALERIA 後援: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本
日本語字幕: 横井和子 字幕監修: 内藤俊夫
2016年/フランス/フランス語/カラー/80分/ヴィスタサイズ/DCP
原題「Et Les Mistraux Gagnants」 © Incognita Films - TFI Droits Audiovisuels

kodomo-oshiete.com

7.14^[土]
より
公開!

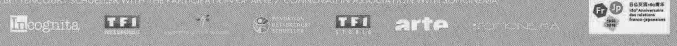
銀座4丁目交差点 稲光アラ通り
シネスイッチ銀座
全席前座・入替制
03 (3561) 0707
www.cineswitch.com



フランスで23万人が観た感動作。

INCIGNITA FILMS presents A movie just about life A MOVIE BY ANNE DAUPHINE JULIARD THE AUTHOR OF « DEUX PETITS PAS SUR LE SABLE MOULLE » PRODUCED BY EDOUARD DE VESINNE WITH AMBRE, CAMILLE, IMAD, CHARLES, TUSDUJEL WRITTEN AND DIRECTED BY ANNE DAUPHINE JULIARD ORIGINAL SCORE ROB MUSIC PUBLISHERS INCIGNITA MUSIC AND HIPPOCAMPUS ÉDITIONS DES ARYSSA EXECUTIVE PRODUCER FRÉDÉRIC BRUNEL ASSOCIATED PRODUCERS ALBALEX REALVOR ET ZEPALDINE OHANA PRODUCTION MANAGER MARTIN DU QUENNY POST PRODUCTION SUEVA OR LAURENT PAVOVA DIRECTORS OF PHOTOGRAPHY MATEJ DÍVAŇ LABILLE KAZVET ALBAIS KATYREHNE MATTHEU FABRI LAURENT BRUNET EDITORS ILYAN COZZELLE MATTHEU COZZELLE HARRIS SUPERVISOR WILFRIED DANKO GOR SHARINE FERRICIAVOR SOLOU GLETTIN ROMANEB MIHEL STROJER INCIGNITA FILMS PRODUCTION IN COPRODUCTION WITH TFI DROITS AUDIOVISUELS IN PARTNERSHIP WITH LE FONDS POUR LES SOINS PALAIEFIS LA FONDATION DE L'ÉCOLE ET SCHULLES WITH THE PARTICIPATION OF ARTE A COPRODUCTION IN ASSOCIATION WITH SCENEMA A DEVELOPMENT DISTRIBUTOR NOUR FILMS INTERNATIONAL SALES TFI STUDIO

INCIGNITA FILMS - TFI DROITS AUDIOVISUELS



私は、医学書にある難病を2つ(右足の腫瘍、突発性難聴)持っています。でも「健康ですか」と問われたら「はい、健康です」と答えます。私以上の難病をかかえた子ども達の日常。健康とは?病気とは?この映画、すごい教科書です。

川嶋朗 (東京有明医療大学教授 医師・医学博士)



心が洗濯されました!
手術の成功率、その後の生存率...
そんなデータにエネルギーを吸い取られるより、
命をどんどん燃やせばいい。そう教えられました。
とても青空が似合う映画!

向井亜紀 (タレント)



「病気や障がいがあっても、
尊厳をもって笑顔と希望にあふれた今を生きる」。
そんな”当たり前”のことを、
この小さな子どもたちが改めて教えてくれました。

豪田トモ (映画「うまれる」監督)

メモとペンをお忘れずに!!
だってこどもたちの言葉はどれもこれも
心に刻んでおきたいものばかりだから。。。。

山口もえ (タレント)

病気を脇に置いて生を謳歌している子どもたち。
どの子の瞳も命の輝きを素直に映している。
この映画を観ずして生きる意味は語れない!

志茂田景樹 (作家・よい子に読み聞かせ隊 隊長)

子供たちのまなざし、声、仕草のひとつひとつがいとおいしい。
難病にさいなまれる小さな体から、それでもなお、
笑顔とともに自然にこぼれ出す好奇心、愛情、喜び、感謝。
気づけば、僕たちのほうこそ、あの子たちにぎゅっと抱きしめられ、
励まされている。ありがとう——。

小野正嗣 (作家)

子どもを子ども扱いしてはいけない。
なぜなら子どもは自分の人生のことを
一番良くわかっているから。
子どもが教えてくれたこと。
聡明さ。希望のありか。現実と向き合うこと。
光と風の移ろい。花の名前。
この映画から大切なメッセージを受け取った。

福岡伸一 (生物学者・『生物と無生物のあいだ』著者)

驚いた!自分がどういう難病かはもちろん、
治療や薬、副作用を、子ども達がここまで理解しているとは。
だからこそドキッとするような哲学を無邪気に発するのか。
「子どもはやりたいことをするのが一番いい」。本当にそうだ。

東ちづる (女優・タレント)



「どんなに長く生きるかよりも、
どう生きたかこそが大事」。
先に逝った子ども達が教えてくれたこと。
この映画のテーマでもある。

細谷亮太 (小児科医・聖路加国際病院)

まるで小さな哲学者たち!
彼らの詩のように軽やかで美しい言葉の数々が、
私たちの心に優しく触れて、
鑑賞後には大きな安堵感に包まれて家路につく、
そんな感じの本作品。何度でも観たい傑作です。

アンヌ (モデル / 絵本ソムリエ)



人生には越えられそうにない苦しみか
襲ってくることもある。
でも、この子たちが教えてくれる。
悲しいことがたとえ長く続いても、
それは不幸とは違う。幸せは自分で決める。
もっと命を信じなきゃ!生きるって素晴らしい!

風見しんご (タレント)

重い病を抱える5人の子どもたち。
エンドロールとともに劇場全体にもたらされたのは
涙でなく笑顔、つまりは「希望」。まいった。
子どもたちが持つ社会風刺、「エスプリ」の精神。
哲学の国フランスの真髓がこの映画だ。

井戸まさえ (ジャーナリスト)

Director's Message

子どもたちは“いまこの瞬間”を生きることの
大切さを改めて教えてくれました。
過去を振り返るのではなく、未来を予測するわけでもなく、
ただ目の前にある、ありのままの日常、
そしてその瞬間を。彼らのお陰で、人生を恐れず、
どんな状況であろうといまある人生を
愛せるようになった気がしています。



—— 監督 アンヌ＝ドフィーヌ・ジュリアン